

1年	デザイン	題材名	ア～トする文字 ～形と配色を活用して表そう～	15時間
----	------	-----	------------------------	------

1 指導目標【知 知識・技能 思 思考・判断・表現 態 主体的に学習に取り組む態度】

<p>【知】 主題を表すために「形」「配色」を活用することの効果を理解し、記述している。 主題を表すために「形」「配色」を活用して、用具をいかして制作している。</p> <p>【思】 主題を基に、「形」「配色」を活用して、アイデアを発想し構想を練っている。 自他の作品を鑑賞し、主題を表すための「形」「配色」の活用の仕方を見付け、具体的な文章で記述している。</p> <p>【態】 主題を表すために「形」「配色」を意識し、試行錯誤を繰り返して、表現を振り返りながら見通しをもって表そうとしている。 主題を表すために「形」「配色」を意識し、様々な作品などの工夫を見付け、感じ取ったことを基に表現を振り返ろうとしている。</p>
--

2 題材を通して意識させたい基礎的な知識・技能「工夫ポイント」

「形」（書体・置き換え）, 「配色」

3 題材の指導計画（15時間完了）

場	時	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ場	①	題材をつかむ 「形」（書体）を学ぶ	○ 本題材が中学校に入学した今の自分に思いを巡らし、中学校で頑張りたいことを、絵文字で表現していくものであることを伝える。 ○ 様々な書体で描かれた文字を鑑賞させ、そこから受け取る印象や効果に気付かせた上で、喜・怒・哀・楽の四つの文字の意味を際立たせる文字の形を考えさせることで、「形」（書体）を学ばせる。
	②	「配色」を学ぶ	○ 寒色や暖色、色の対比など、色についての基本的な知識を押さえた上で、喜・怒・哀・楽の四つの文字の意味を際立たせる配色を考えさせることで、「配色」を学ばせる。
	③	「形」（置き換え）を学ぶ	○ 文字から連想できる言葉を書き出させ、言葉を基に文字の部分を絵に置き換えさせて、絵文字をつくらせることで、「形」（置き換え）を学ばせる。
	④	主題を生み出す	○ 中学校に入学した今の自分に思いを巡らせ、生み出させた主題をワークシートに記述させる。
追求する場	⑤	発想する 【拡散的思考】	○ 生み出した主題を基に、「形」「配色」を活用させながら、複数のアイデアスケッチを発想させる。
	⑥		○ 発想の途中で参考作品などを示し、「形」「配色」の活用の仕方に気付かせた上で、活用の仕方を変えて複数のアイデアを考えることができているかを問い掛けることで、新たなアイデアスケッチを発想することができるようにさせていく（「拡M①」）。 ○ 主題を表すために「形」「配色」がどのように活用されているかをワークシートに記述させ、それを振り返らせながら表現の見通しをもたせていく（「拡M①」）。
	⑦	中間鑑賞会1 【拡散的思考】	○ 発想されたアイデアスケッチを基に、クラス全体のアイデアスケッチを鑑賞させる、中間鑑賞会（第1回）を行う。主題が「形」「配色」を活用して表現されているかに着目させ、自分がよいと思うところをワークシートに記述する活動を行わせることで、参考になりそうなアイデアを見付けさせていく（「拡

		M②)。
	⑧ 中間鑑賞会 2 【拡散的思考】 構想する 【収束的思考】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発想されたアイデアスケッチを基に、グループ内で意見交換を行わせる、中間鑑賞会（第2回）を行う。主題が「形」「配色」を活用して表現されているかなどの意見交換させ、付箋紙に記述する活動を行わせることで、「工夫ポイント」の新たな活用の仕方に気付かせていく（「拡M②」）。 ○ 伝えられた意見を参考にさせながら、再度自分のアイデアスケッチの見直しをさせ、自分自身の思いと他者の意見を基に、最終的なアイデアを決定させる。 ○ 構想を練る際、中間鑑賞での友達の意見や気付いたことを、どのように取り入れるかを取捨選択するように促した上で、アイデアスケッチを見直させていくことで、より主題が表れるアイデアの最終版の構想を練ることができるようにさせていく（「収M①」）。 ○ 決定したアイデアスケッチに、主題を表すためにどのように「形」「配色」が活用されているかをワークシートに記述させ、それを振り返らせながら表現の見通しをもたせていく（「収M②」）。
	⑨ 本制作をする ⑩ 【収束的思考】 ⑪ ⑫ ⑬	<ul style="list-style-type: none"> ○ ポスターカラーの基本的な使い方を学ばせるために、色相のグラデーションや明度のグラデーションを絵の具で描く。 ○ 主題を表すために用具をいかして作品を制作させる。 ○ 表現を振り返りながら見通しをもちやすくするために、小グループの隊形で制作をさせ、いつでも互いの作品の鑑賞や、意見交換をできるようにさせる。 ○ 本制作の作品に、主題を表すために「形」「配色」をどのように活用しているかをワークシートに記述させ、それを振り返らせながら見通しをもたせていく（「収M②」）。 ○ 制作途中に友達の作品の鑑賞を促し、主題を表すための「形」「配色」の活用の仕方や、用具のいかし方などを見付けさせ、それを基に表現を振り返らせながら見通しをもって表現させていく（「収M②」）。
ふりかえる場	⑭ 最終鑑賞会を行う ⑮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本制作をして完成した作品について発表させ、自他の作品を鑑賞させる最終鑑賞会を行い、主題を表すために「形」「配色」を活用していくことがどのように効果的だったかを振り返らせ、ワークシートに記述させる（「拡・収RM」）。 ○ 題材全体を振り返らせ、主題を追求していくにあたって、アイデアスケッチを複数発想したり、中間鑑賞会での意見交換を参考に構想を練ったり、主題を表すために「形」「配色」がどのように活用されているかを振り返りながら本制作をしたことが、主題を実現することにつながったかを振り返らせ、ワークシートに記述させる（「拡・収RM」）。

4 評価基準表

時 場	主な学習の活動	評 価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ② ③ ④ つか む 場	○ 「形」「配 色」を学ぶ ○ 主題を生み 出す	A	「形」「配色」の効 果を理解し、具体的に 記述している。	/	「形」「配色」を意識し、 試行錯誤を繰り返して、表現 を振り返りながら見直しをも って表そうとしている。 「形」「配色」を意識し、 様々な作品の工夫を見付け、 感じ取ったことを基に表現を 振り返ろうとしている。
		B	「形」「配色」の効 果を理解し、記述して いる。		「形」「配色」を意識し、 試行錯誤を繰り返して表そう としている。 「形」「配色」を意識し、 様々な作品の工夫を見付けよ うとしている。
		方 法	・ワークシート		・活動の様子 ・ワークシート
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 追 求 す る 場	○ 発想し構想 を練る	A	「形」「配色」を意 識し、それらの活用の 仕方が伝わるように、 用具をいかして丁寧に アイデアスケッチを制 作している。	/	A 主題を表すために「形」 「配色」を意識し、試行 錯誤を繰り返して、表現 を振り返りながら見直し をもって表そうとしてい る。 主題を表すために「形」 「配色」を意識し、様々 なアイデアスケッチや作 品の工夫を見付け、感じ 取ったことを基に表現を 振り返ろうとしている。
		B	「形」「配色」を意 識し、それらの活用の 仕方が伝わるようにア イデアスケッチを制作 している。		主題を基に、「形」「配色」の いずれかを活用して、アイデア を発想し構想を練っている。 友達のアイデアスケッチを鑑賞 し、「形」「配色」についての活 用の仕方のよいところを見付け ている。
		方 法	・ワークシート		・ワークシート
⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ 追 求 す る 場	○ 本制作をす る	A	主題を表すために、 「形」「配色」を活用 して、用具をいかして 制作している。	/	B 主題を表すために「形」 「配色」を意識し、試行 錯誤を繰り返して表そう としている。 主題を表すために「形」 「配色」を意識し、様々 なアイデアスケッチや作 品の工夫を見付けよう としている。
		B	主題を表すために、 「形」「配色」のい ずれかを活用して、用具 をいかして制作してい る。		主題を表すために「形」「配色」 がどのように活用されているかを 鑑賞したり振り返ったりし、具 体的に記述している。
		方 法	・作品 ・ワークシート		・ワークシート 方法 ・活動の様子 ・ワークシート
⑭ ⑮ ふ り か え る 場	○ 最終鑑賞会 を行う	A	主題を表すために 「形」「配色」を活用 することの効果を理解 し、記述している。	/	「形」「配色」を意識し、 様々な作品の工夫を見付け、 感じ取ったことを基に表現を 振り返ろうとしている。
		B	主題を表すために 「形」「配色」のい ずれかを活用すること の効果を理解し、記述 している。		自他の作品を鑑賞し、主題を表 すための「形」「配色」の活用の 仕方を見付け、具体的な文章で記 述している。 自他の作品を鑑賞し、主題を表 すための「形」「配色」の活用の 仕方を見付け、文章で記述してい る。
		方 法	・ワークシート		・ワークシート ・活動の様子 ・ワークシート

1年	絵画 工芸	題材名	浮き浮きレリーフづくり ～構図と彫り方を活用して表そう～	15時間
----	----------	-----	---------------------------------	------

1 指導目標【知】知識・技能 【思】思考・判断・表現 【態】主体的に学習に取り組む態度】

【知】	主題を表すために「構図」「彫り方」を活用することの効果を理解し、記述している。 主題を表すために「構図」「彫り方」を活用して、用具をいかして制作している。
【思】	主題を基に、「構図」「彫り方」を活用して、アイデアを発想し構想を練っている。 自他の作品を鑑賞し、主題を表すための「構図」「彫り方」の活用の仕方を見付け、具体的な文章で記述している。
【態】	主題を表すために「構図」「彫り方」を意識し、試行錯誤を繰り返して、表現を振り返りながら見直しをもって表そうとしている。 主題を表すために「構図」「彫り方」を意識し、様々な作品などの工夫を見付け、感じ取ったことを基に表現を振り返ろうとしている。

2 題材を通して意識させたい基礎的な知識・技能「工夫ポイント」

「構図」「彫り方」

3 題材の指導計画（15時間完了）

場	時	主な学習活動	指導上の留意点
つかかむ場	①	題材をつかむ 「構図」を学ぶ	○ 本題材が自分の好きな生き物をモチーフとして、木彫りのレリーフで表現していくものであることを伝える。 ○ 日の丸構図、対角線構図、3分割構図、シンメトリー構図の写真を鑑賞させ、構図の違いから感じる印象の違いや効果を考えた上で、構図を意識して簡単なイラストを描かせることで「構図」を学ばせる。
	②	「彫り方」を学ぶ	○ 線彫りや石目彫りなど、彫刻刀の基本的な彫り方について押さえた上で、簡単な模様を浮き彫りで彫ってみることで、「彫り方」を学ばせる。
	③	主題を生み出す	○ 自分の好きな生き物のどのような姿を表現したいかを考えさせ、生み出させた主題をワークシートに記述させる。
追求する場	④	発想する 【拡散的思考】	○ 生み出した主題を基に、「構図」「彫り方」を活用させながら、複数のアイデアスケッチを発想させる。
	⑤		○ 発想の途中で参考作品などを示し、「構図」「彫り方」の活用の仕方に気付かせた上で、活用の仕方を変えて複数のアイデアを考えることができるかを問い掛けることで、新たなアイデアスケッチを発想することができるようにさせていく（「拡M①」）。 ○ 主題を表すために「構図」「彫り方」がどのように活用されているかをワークシートに記述させ、それを振り返らせながら表現の見直しをもたせていく（「拡M①」）。
	⑥	中間鑑賞会1 【拡散的思考】	○ 発想されたアイデアスケッチを基に、クラス全体のアイデアスケッチを鑑賞させる、中間鑑賞会（第1回）を行う。主題が「構図」「彫り方」を活用して表現されているかに着目させ、自分がよいと思うところをワークシートに記述する活動を行わせることで、参考になりそうなアイデアを見付けさせていく（「拡M②」）。
	⑦	中間鑑賞会2 【拡散的思考】	○ 発想されたアイデアスケッチを基に、グループ内で意見交換を行わせる、中間鑑賞会（第2回）を行う。主題が「構図」「彫

	<p>構想する 【収束的思考】</p>	<p>り方」を活用して表現されているかなどの意見交換させ、付箋紙に記述する活動を行わせることで、「工夫ポイント」の新たな活用の仕方に気付かせていく（「拡M②」）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 伝えられた意見を参考にさせながら、再度自分のアイデアスケッチの見直しをさせ、自分自身の思いと他者の意見を基に、最終的なアイデアを決定させる。 ○ 構想を練る際、中間鑑賞での友達の見や気付いたことを、どのように取り入れるかを取捨選択するように促した上で、アイデアスケッチを見直させていくことで、より主題が表れるアイデアの最終版の構想を練ることができるようにさせていく（「収M①」）。 ○ 決定したアイデアスケッチに、主題を表すためにどのように「構図」「彫り方」が活用されているかをワークシートに記述させ、それを振り返らせながら表現の見通しをもたせていく（「収M②」）。
<p>⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭</p>	<p>本制作をする 【収束的思考】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ アイデアスケッチをカーボン紙を用いて板に転写させる。 ○ 主題を表すために用具をいかして作品を制作させる。 ○ 表現を振り返りながら見通しをもちやすくするために、小グループの隊形で制作をさせ、いつでも互いの作品の鑑賞や、意見交換をできるようにさせる。 ○ 本制作の作品に、主題を表すために「構図」「彫り方」をどのように活用しているかをワークシートに記述させ、それを振り返らせながら見通しをもたせていく（「収M②」）。 ○ 制作途中に友達の作品の鑑賞を促し、主題を表すための「構図」「彫り方」の活用の仕方や、用具のいかし方などを見付けさせ、それを基に表現を振り返らせながら見通しをもって表現させていく（「収M②」）。 ○ 主題に合う色のニスを選択し、ニス塗りを行う。
<p>ふりかえる場</p>	<p>⑮ 最終鑑賞会を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本制作をして完成した自他の作品を鑑賞させる最終鑑賞会を行い、主題を表すために「構図」「彫り方」を活用していくことがどのように効果的だったかを振り返らせ、ワークシートに記述させる（「拡・収RM」）。 ○ 題材全体を振り返らせ、主題を追求していくにあたって、アイデアスケッチを複数発想したり、中間鑑賞会での意見交換を参考に構想を練ったり、主題を表すために「構図」「彫り方」がどのように活用されているかを振り返りながら本制作をしたことが、主題を実現することにつながったかを振り返らせ、ワークシートに記述させる（「拡・収RM」）。

4 評価基準表

時 場	主な学習の活動	評 価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ② ③ つか ひ場	○ 「図法」「彫り方」を学ぶ ○ 主題を生み出す	A	「構図」「彫り方」の効果を理解し、具体的に記述している。	/	「構図」「彫り方」を意識し、試行錯誤を繰り返して、表現を振り返りながら見通しをもって表そうとしている。 「構図」「彫り方」を意識し、様々な作品の工夫を見付け、感じ取ったことを基に表現を振り返ろうとしている。
		B	「構図」「彫り方」の効果を理解し、記述している。		「構図」「彫り方」を意識し、試行錯誤を繰り返して表そうとしている。 「構図」「彫り方」を意識し、様々な作品の工夫を見付けようとしている。
		方法	・ワークシート		・活動の様子 ・ワークシート
④ ⑤ ⑥ ⑦ 追 求 す る 場	○ 発想し構想を練る	A	「構図」「彫り方」を意識し、それらの活用の仕方が伝わるように、用具をいかして丁寧にアイデアスケッチを制作している。	主題を基に、「構図」「彫り方」を活用して、アイデアを発想し構想を練っている。 友達のアイデアスケッチを鑑賞し、「構図」「彫り方」についての活用の仕方のよいところを見付けたり、アドバイスを伝えたりしている。	A 主題を表すために「構図」「彫り方」を意識し、試行錯誤を繰り返して、表現を振り返りながら見通しをもって表そうとしている。 主題を表すために「構図」「彫り方」を意識し、様々なアイデアスケッチや作品の工夫を見付け、感じ取ったことを基に表現を振り返ろうとしている。
		B	「構図」「彫り方」を意識し、それらの活用の仕方が伝わるようにアイデアスケッチを制作している。	主題を基に、「構図」「彫り方」のいずれかを活用して、アイデアを発想し構想を練っている。 友達のアイデアスケッチを鑑賞し、「構図」「彫り方」についての活用の仕方のよいところを見付けている。	
		方法	・ワークシート	・ワークシート	
⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ 追 求 す る 場	○ 本制作をする	A	主題を表すために、「構図」「彫り方」を活用して、用具をいかして制作している。	主題を表すために「構図」「彫り方」がどのように活用されているかを鑑賞したり振り返ったりし、具体的に記述している。	B 主題を表すために「形」「配色」を意識し、試行錯誤を繰り返して表そうとしている。 主題を表すために「形」「配色」を意識し、様々なアイデアスケッチや作品の工夫を見付けようとしている。
		B	主題を表すために、「構図」「彫り方」のいずれかを活用して、用具をいかして制作している。	主題を表すために「構図」「彫り方」がどのように活用されているかを鑑賞したり振り返ったりし、記述している。	
		方法	・作品 ・ワークシート	・ワークシート	方法 ・活動の様子 ・ワークシート
⑮ ふ り か え る 場	○ 最終鑑賞会を行う	A	主題を表すために「構図」「彫り方」を活用することの効果を理解し、記述している。	自他の作品を鑑賞し、主題を表すための「構図」「彫り方」の活用の仕方を見付け、具体的な文章で記述している。	「構図」「彫り方」を意識し、様々な作品の工夫を見付け、感じ取ったことを基に表現を振り返ろうとしている。
		B	主題を表すために「構図」「彫り方」のいずれかを活用することの効果を理解し、記述している。	自他の作品を鑑賞し、主題を表すための「構図」「彫り方」の活用の仕方を見付け、文章で記述している。	「構図」「彫り方」を意識し、様々な作品の工夫を見付けようとしている。
		方法	・ワークシート	・ワークシート	・活動の様子 ・ワークシート

1年	デザイン 彫刻	題材名	地元を和菓子でPRしよう ～混色や細工を工夫した和菓子づくり～	14時間
----	------------	-----	------------------------------------	------

1 指導目標【知】知識・技能 【思】思考・判断・表現 【態】主体的に学習に取り組む態度】

【知】	主題を表すために「混色」「細工」を活用することの効果を理解し、記述している。 主題を表すために「混色」「細工」を活用して、用具をいかして制作している。
【思】	主題を基に、「混色」「細工」を活用して、アイデアを発想し構想を練っている。 自他の作品を鑑賞し、主題を表すための「混色」「細工」の活用の仕方を見付け、具体的な文章で記述している。
【態】	主題を表すために「混色」「細工」を意識し、試行錯誤を繰り返して、表現を振り返りながら見通しをもって表そうとしている。 主題を表すために「混色」「細工」を意識し、様々な作品などの工夫を見付け、感じ取ったことを基に表現を振り返ろうとしている。

2 題材を通して意識させたい基礎的な知識・技能「工夫ポイント」

「混色」「細工」

3 題材の指導計画（14時間完了）

場	時	主な学習活動	指導上の留意点
つか か む 場	①	題材をつかむ 主題を生み出す	○ 本題材が地元の魅力を和菓子でPRするものであることを伝える。 ○ 地元について調べた情報を基に、「和菓子でPRしたい地域の魅力」について考えさせ、生み出させた主題をワークシートに記述させる
	②	「混色」を学ぶ	○ 様々な既存の和菓子の写真を鑑賞させ、自然の風物や季節感が表わされた和菓子のもつ配色の特徴に気付かせる。 ○ 日本の伝統色を紹介し、見た目のよさや美しさを表すために、伝統色を意識させて着色する練習をさせ、和の要素を表す混色を学ばせる。
	③	「細工」を学ぶ	○ 様々な既存の和菓子の実物を鑑賞させ、和菓子のもつ繊細な形や質感の特徴に気付かせる。 ○ 本題材で用いる材料である樹脂粘土やレジン、用具であるヘラや細工ハサミなどを紹介し、見た目のよさや美しさを表すために、材料や用具の特性をいかして油粘土で形をつくる練習をさせ、繊細な形や質感を表す細工を学ばせる。
追 求 す る 場	④	発想する 【拡散的思考】	○ 生み出した主題を基に、「混色」「細工」を意識させながら、複数のアイデアスケッチと油粘土による試作を発想させる。
	⑤		○ 発想の途中で参考作品などを示し、「混色」「細工」の活用の仕方に気付かせた上で、活用の仕方を変えて複数のアイデアを考えることができているかを問い掛けることで、新たなアイデアスケッチと試作を発想することができるようにさせていく（「拡M①」）。 ○ 主題を表すために「混色」「細工」がどのように活用されているかをワークシートに記述させ、それを振り返らせながら表現の見通しをもたせていく（「拡M①」）。
	⑥	中間鑑賞会1 【拡散的思考】	○ 発想されたアイデアスケッチと試作を基に、クラス全体のアイデアスケッチと試作を鑑賞させる、中間鑑賞会（第1回）を行う。主題が「混色」「細工」を活用して表現されているかに

		<p>着目させ、自分がよいと思うところをワークシートに記述する活動を行わせることで、参考になりそうなアイデアを見付けさせていく（「拡M②」）。</p>
	<p>⑦ 中間鑑賞会 2 【拡散的思考】</p> <p>構想する 【収束的思考】</p>	<p>○ 発想されたアイデアスケッチと試作を基に、グループ内で意見交換を行わせる、中間鑑賞会（第2回）を行う。主題が「混色」「細工」を活用して表現されているかなどの意見交換させ、付箋紙に記述する活動を行わせることで、「工夫ポイント」の新たな活用の仕方に気付かせていく（「拡M②」）。</p> <p>○ 伝えられた意見を参考にさせながら、再度自分のアイデアスケッチと試作の見直しをさせ、自分自身の思いと他者の意見を基に、最終的なアイデアを決定させる。</p> <p>○ 構想を練る際、中間鑑賞での友達の意見や気付いたことを、どのように取り入れるかを取捨選択するように促した上で、アイデアスケッチと試作を見直させていくことで、より主題が表れるアイデアの最終版の構想を練ることができるようにさせていく（「収M①」）。</p> <p>○ 決定したアイデアスケッチと試作に、主題を表すためにどのように「混色」「細工」が活用されているかをワークシートに記述させ、それを振り返らせながら表現の見通しをもたせていく（「収M②」）。</p>
	<p>⑧ 本制作をする ⑨ 【収束的思考】 ⑩ ⑪ ⑫</p>	<p>○ 主題を表すために、樹脂粘土を中心とした材料や用具をいかして作品を制作させる。</p> <p>○ 表現を振り返りながら見通しをもちやすくするために、小グループの隊形で制作をさせ、いつでも互いの作品の鑑賞や、意見交換をできるようにさせる。</p> <p>○ 本制作の作品に、主題を表すために「混色」「細工」をどのように活用しているかをワークシートに記述させ、それを振り返らせながら見通しをもたせていく（「収M②」）。</p> <p>○ 制作途中に友達の作品の鑑賞を促し、主題を表すための「混色」「細工」の活用の仕方や、用具のいかし方などを見付けさせ、それを基に表現を振り返らせながら見通しをもって表現させていく（「収M②」）。</p>
ふりかえる場	<p>⑬ 最終鑑賞会を行う ⑭</p>	<p>○ 本制作をして完成した作品について発表させ、自他の作品を鑑賞させる最終鑑賞会を行い、主題を表すために「混色」「細工」を活用していくことがどのように効果的だったかを振り返らせ、ワークシートに記述させる（「拡・収RM」）。</p> <p>○ 題材全体を振り返らせ、主題を追求していくにあたって、アイデアスケッチと試作を複数発想したり、中間鑑賞会での意見交換を参考に構想を練ったり、主題を表すために「混色」「細工」がどのように活用されているかを振り返りながら本制作をしたことが、主題を実現することにつながったかを振り返らせ、ワークシートに記述させる（「拡・収RM」）。</p>

4 評価基準表

時 場	主な学習の活動	評 価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ② ③ つか む場	○ 「混色」「細工」を学ぶ ○ 主題を生み出す	A	「混色」「細工」の効果を理解し、具体的に記述している。	/	「混色」「細工」を意識し、試行錯誤を繰り返して、表現を振り返りながら見直しをもって表そうとしている。 「混色」「細工」を意識し、様々な作品の工夫を見付け、感じ取ったことを基に表現を振り返ろうとしている。
		B	「混色」「細工」の効果を理解し、記述している。		「混色」「細工」を意識し、試行錯誤を繰り返して表そうとしている。 「混色」「細工」を意識し、様々な作品の工夫を見付けようとしている。
		方法	・ワークシート		・活動の様子 ・ワークシート
④ ⑤ ⑥ ⑦ 追 求 す る 場	○ 発想し構想を練る	A	「混色」「細工」を意識し、それらの活用の仕方が伝わるように、用具をいかして丁寧にアイデアスケッチと試作を制作している。	主題を基に、「混色」「細工」を活用して、アイデアを発想し構想を練っている。 友達のアイデアスケッチと試作を鑑賞し、「混色」「細工」についての活用の仕方のよいところを見付けたり、アドバイスを伝えたりしている。	A 主題を表すために「混色」「細工」を意識し、試行錯誤を繰り返して、表現を振り返りながら見直しをもって表そうとしている。 主題を表すために「混色」「細工」を意識し、様々なアイデアスケッチと試作や作品の工夫を見付け、感じ取ったことを基に表現を振り返ろうとしている。
		B	「混色」「細工」を意識し、それらの活用の仕方が伝わるようにアイデアスケッチと試作を制作している。	主題を基に、「混色」「細工」のいずれかを活用して、アイデアを発想し構想を練っている。 友達のアイデアスケッチと試作を鑑賞し、「混色」「細工」についての活用の仕方のよいところを見付けている。	
		方法	・ワークシート	・ワークシート	
⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ 追 求 す る 場	○ 本制作をする	A	主題を表すために、「混色」「細工」を活用して、用具をいかして制作している。	主題を表すために「混色」「細工」がどのように活用されているかを鑑賞したり振り返ったりし、具体的に記述している。	B 主題を表すために「混色」「細工」を意識し、試行錯誤を繰り返して表そうとしている。 主題を表すために「混色」「細工」を意識し、様々なアイデアスケッチと試作や作品の工夫を見付けようとしている。
		B	主題を表すために、「混色」「細工」のいずれかを活用して、用具をいかして制作している。	主題を表すために「混色」「細工」がどのように活用されているかを鑑賞したり振り返ったりし、記述している。	
		方法	・作品 ・ワークシート	・ワークシート	方法 ・活動の様子 ・ワークシート
⑬ ⑭ ふ り か え る 場	○ 最終鑑賞会を行う	A	主題を表すために「混色」「細工」を活用することの効果を理解し、記述している。	自他の作品を鑑賞し、主題を表すための「混色」「細工」の活用の仕方を見付け、具体的な文章で記述している。	「混色」「細工」を意識し、様々な作品の工夫を見付け、感じ取ったことを基に表現を振り返ろうとしている。
		B	主題を表すために「混色」「細工」のいずれかを活用することの効果を理解し、記述している。	自他の作品を鑑賞し、主題を表すための「混色」「細工」の活用の仕方を見付け、文章で記述している。	「混色」「細工」を意識し、様々な作品の工夫を見付けようとしている。
		方法	・ワークシート	・ワークシート	・活動の様子 ・ワークシート